

第7回 11月19日（木）

今回の一流塾は、講師に津田和明氏（サントリー㈱元副社長、独立行政法人日本芸術文化振興会前理事長）、斉藤惇氏（㈱東京証券取引所グループ取締役兼代表執行役社長）を、特別ゲストに渡部恒三氏（衆議院議員、元衆議院副議長、前民主党最高顧問）をお迎えしました。

津田氏は『「やってみなはれ」を実行した佐治敬三』と題し、サントリーに伝わる創業者のDNA、佐治敬三氏（元サントリー会長）と接して感じた人間的魅力、生活文化企業としての“文化”への取り組み等についてご披露頂きました。「文化は“心”の足しになる」、「サントリーの新商品開発力の源は、文化の多様性にある」、といった発言に、塾生からは人間力を磨く為の文化への取り組みについて考えさせられる、との声が多く上がりました。

斉藤氏は『よい会社・よい経営者 - 産業と市場の再生 -』と題し、世界経済の状況と米国発金融危機発生の背景について、「Fake Money（信用創造により生成された資金）をどこまで許容するべきか？」等、鋭い分析をご披露頂きました。また、成長著しいアジア諸外国と日本経済の厳しい経済状況の対比を踏まえ、日本の企業経営の姿勢、コーポレートガバナンスへの取組等について激を飛ばされました。塾生からは、日本経済の鋭い分析に感銘を受けた、日本がおかれた厳しい状況を再確認した、等の声があげられました。

渡部氏は忙しい国会日程の合間をぬってご出席頂き、半世紀にわたる政治家としてのキャリアを振り返りながら、政権交代後の民主党の政権運営、日本の厳しい現状と今後のあり方、そして政治家としてのコミットメント等についてお話を頂きました。また、独特のユーモアを交えた語り口で、「政界の水戸黄門」誕生秘話や、渡部氏を慕い懇親会に駆けつけた古い友人の絹谷幸二氏（日本芸術院会員、東京芸術大学教授、画家、次回一流塾講師）との親交等をご披露頂きました。人間政治家としてのスケールの大きさに圧倒された、もう少しお話をお伺いしたかった等の声が上がっていました。